

## 市長から

昨年は「平成」という一つの歴史が幕を閉じ「令和」という新たな時代が始まった特別な年となりました。

こうした中、本市において新たな時代に向け現在策定している「第2期瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略」では、これまでの取り組みに加え、「関係人口の創出・拡大」「子どもの居場所づくり」「地方創生SDGsによる持続可能なまちづくり」などに市民、産業界、学校等関係機関と連携して取り組みます。

特に出産・子育てしやすい環境を整備するため、新たな子育て支援策を検討しており、財源には「太陽のまち基金」を充てることとしています。

そして、これらの取り組みを重点的に推進していくため組織の見直しを行います。

また、今年に入り感染が拡大し、世界各国で脅威となっている「新型コロナウイルス感染症」については、1月30日に岡山県が「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置したことを受け、本市においても2月3日に「第1回新型コロナウイルス感染症対策会議」を開催し、職員の情報共有を図るとともに、市民に対し、感染予防対策のチラシを配布・回覧しました。

### 新年度の機構改革

総務部については、危機管理部を廃止し、総務課と危機管理課で組織し、災害対策本部における統括部門の強化を図ります。

また、財政課、契約管財課、そして契約管財課の課内室であった建築営繕室を独立させ、財務部とし、公共施設の再編と行政改革を一体的に推進します。

市民部については、税務課と収納推進課を統合して税務課とし、賦課部門と収納部門の連携を図ります。

環境部については、地球温暖化対策の工事が完了したことから、環境政策推進室と生活環境課を統合して環境課とし、ごみ減量化対策等環境政策を一体的に進めていきます。

保健福祉部については、福祉課、いきいき長寿課、トータルサポートセンターをもって福祉部とし、健康づくり推進課と子育て支援課で組織したことも、健康部を新設します。また、子ども健康部には、新たな子育て施策の検討を行

う子ども政策課を新設し、結婚、妊娠、出産、子育てを一貫して支援していきます。

産業建設部については、農林水産課と商工観光課の商工部門を統合して産業振興課とします。商工観光課の観光部門は、教育委員会から移管させる予定の文化・文化財保護の事務と統合し、文化観光部文化観光課とし、文化・文化財の付加価値を高め、観光やまちづくりに活用していくこととしています。

### 庁舎再編計画

庁舎再編計画については、耐震性の問題から、長船町公民館、長船支所および長船分駐所の3施設の対策を最優先として、ゆめトピア長船駐車場に保健福祉部と長船支所の仮庁舎を設置し、ゆめトピア



長船支所

長船は公民館としての利用を前提に改修、そして長船分駐所は新築することとし、事業を進めてきました。

しかし、本庁舎借地部分の用地取得の見込みが立ったことや、本庁舎南側の駐車場が整備され、その利用状況が明らかになったことから、かねてより懸案であった分庁方式の解消を目指し、本庁西庁舎の改修による保健福祉部の仮移転を検討に加えることとなりました。

### 令和2年度当初予算

当初予算編成に当たっては、瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略に基づく「地方創生事業」や、子どもの育ちや子育てを支援し、推進していく環境を整備する「こどもひろば推進事業」、また、令和2年度においても錦海塩田跡地の貸付収入を積み立てた太陽のまち基金を活用した「まちづくり事業」などを実施します。

さらに、ふるさと納税を積み立てた応援基金を活用するため、必要と認められた事業について基金積立金を充当し、限られた財源を効果的に配分し

たメリハリのある予算を編成しました。

一般会計の予算総額は、約196億4,000万円と前年度の予算をさらに約13億円上回り、合併後最大の規模を更新した予算となっています。

これは、前年度に引き続き、JR3駅の駅前等整備事業、学校施設長寿命化計画に基づく大規模改修などや、学校教育におけるICT情報ネットワーク環境ならびに機器およびソフト整備の事業費などを計上したことが主な要因となっています。

### 第3次瀬戸内市総合計画

平成22年度に策定した第2次瀬戸内市総合計画は、来年度末で10年の計画期間が終了することから、来年度に令和3年度から12年度までを基本計画期間とした「第3次瀬戸内市総合計画」を策定します。

策定に当たっては、「市民まちづくり意識調査」を実施するとともに、市民や外部委員による審議会の意見も聞き

ながら、市民をはじめ本市に関係する誰もが「このまちに生まれてよかった、住んでよかった、関わってよかった」と思えるまちを目指して、よりよい施策を盛り込んでいきたいと考えています。

### 安全運転支援装置整備補助金

近年、高齢運転者による交通事故が多発しており、特にアクセルとブレーキの踏み間違いによる誤発進は、大きな事故を引き起こしています。

そこで、高齢運転者による交通事故の防止および事故時の被害軽減のため、自動車に急発進等抑制装置を取り付ける満65歳以上の高齢運転者に対し、補助金を交付する予定としています。

装置については、安全性や信頼性を考慮し、国の性能認定を受けたものとします。

### こどもひろばの推進

市では、平成28年度に策定した「みんなでつくる瀬戸内

邑久スポーツ公園冒険の森で開催された「こどもひろば」の様子



市の子育て広場基本構想」に基づき、外遊びの支援を通じて、子どもの育ちを市民や市全体で見守る「こどもひろば」を推進します。

現在、具体的な方向性を示すことを目的として、「みんなでつくる瀬戸内市のこどもひろば基本計画」の3月末の完成を目指しています。

今後、海や山をはじめとする自然や歴史・文化など地域の社会資源の豊富な魅力を生かした外遊びを通じて、赤ちゃんからお年寄りまで全ての市民が、参加し、関わり、

見守る「こどもひろば」を推進していきたいと考えています。

### 病児・病後児保育施設の整備

病児・病後児保育施設の「山陽ちびっこ療育園・牛窓」が、今年3月末をもって閉園されることとなりました。これにより、市の病児・病後児保育施設は、2施設から1施設となります。

市としましては、「子ども・子育て支援事業計画」中の病児・病後児保育に係る見込量を確保するため、早急に新たな施設を整備する必要があります。

現在、瀬戸内市総合福祉センターの中の一室をお借りして、瀬戸内市民病院に運営を委託する方向で、社会福祉協議会とも連携して、調整を進めています。

施設整備に当たっては、令和2年度中の運営開始を目指し、工事の早期着工に向け準備を整えていきますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。



錦海塩田跡地の太陽光発電所



学校教育においては、小学校では来年度から、中学校では再来年度から完全実施となる新学習指導要領に示された「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けて、各学校における授業改善や指導体制の充実を進めています。

また、一人一人の子どもに向き合う時間を確保し、効果的な教育活動を行うために働き方改革を推進しています。

これまでも平成27年度から校務支援ソフトを導入し、諸帳簿の作成など事務作業の効率化を図る取り組みを行ってきていますが、さらに昨年10月から、情報共有の新たなシステムを活用して、勤務時間間の把握やスケジュール管理を行い、その効果を検証しており、来年度9月から、より効率的な業務を実現できるシステムを導入する予定です。

また、今年1月からは、市内小中学校に留守番電話を順次導入して勤務時間外の業務を整理できる環境づくりに着手し、保護者や地域の方々にご理解とご協力をお願いしています。

### 学校施設の整備

行幸小学校校舎および牛窓東幼稚園園舎の大規模改修工事について、仮設校舎を昨年末に設置し、冬学期中に教室などの移動作業を終え、3学期から既存校舎の改修工事に着手しました。

これらの取り組みの成果を検証して、教職員の抱える業務のさらなる効率化を図るとともに、時代が求める教育課題の解決や一人一人の子どもへの自立を目指す学校力の向上に取り組んでいきます。

### 校内通信ネットワークの整備

令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備を行う「GIGAスクール構想」を盛り込んだ国の補正予算が成立しました。「GIGAスクール構想」とは、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させるために、児童生徒一人1台端末を前提とした高速大容量の通信ネットワークを整備するというものです。

現在、市内小中学校の通信ネットワーク機器は老朽化し、通信速度も十分ではなく、将来的な児童生徒一人1台端末の実現を進めています。試運転や検査などが、一部4月にずれ込む見通しとなっていますが、学校関係者のご協力のもと、工事はほぼ順調に進んでいますので、令和2年度のプールの授業については、新しくなった施設を使っていただけのものと考えています。

### 夢二のふるさと芸術交流プロジェクト

2月2日に3年目となる夢二コンクールの本選が終了しました。台風の影響で日程の変更がありました。予選に参加した21人の応募の中から予選を通過した10人によって行われ、入賞者に対して賞状と記念品が授与されました。

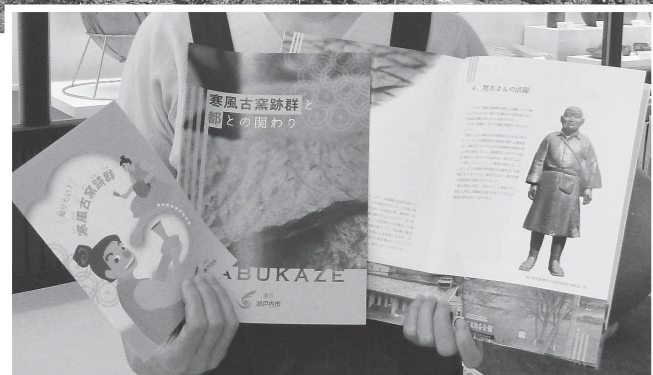
市内を訪れてもらうことを目的とした夢二ドライブマップをコンサート会場などで配布したところ、昨年度の1.5倍以上となる約180人の方々がスタンプラリーを達成され、市内観光施設の回遊性の向上を図ることができました。

### 用語の解説・備考

シビックプライド  
市民一人一人が抱くまちへの愛着や誇りのこと。

今後、この盛り上がりが続けるよう、引き続き市民の文化芸術活動を支援していきたいと考えています。

## さぶかぜ 寒風陶芸会館



奈良文化財研究所の協力で、寒風の歴史を伝えるパンフレットが完成しました。寒風陶芸会館で配布のほか、ホームページでも公開しています。



指導員が説明する陶芸体験メニューが人気

瀬戸内市一帯は、中四国地方最大の須恵器生産地でした。後に、この須恵器が備前焼に発展したといわれています。牛窓町長浜にある「寒風古窯跡群」(国指定史跡)では、7世紀前半から8世紀前半にかけて須恵器が焼かれました。奈良の都に納められ、その色の白さから珍重されたという逸話を持つ寒風の須恵器。そうした歴史環境から寒風地域は「陶芸の里」として整備され、昭和60年には寒風陶芸会館が開館しました。



館内では地元郷土史家の時実黙水氏が収集・調査した出土遺物を中心とした展示がされています。土ひねりや絵付けなどの体験メニューもあり、指導員が作り方を説明するので、初めての人でも安心して体験できるようになっています。



お気に入りの一品を探してみは?

### 利用のご案内

- ▷所在地 牛窓町長浜5092
  - ▷利用時間 午前9時～午後5時(体験受付は午後3時30分まで)
  - ▷入館料 無料
  - ▷休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)、年末年始
- 寒風陶芸会館 ☎0869-34-5680  
HP <http://sabukaze.com/>